

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373000688
法人名	社会福祉法人栄和福祉会
事業所名	グループホームたのうらそう
訪問調査日	平成 20 年 12 月 20 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 4 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4373000688
法人名	社会福祉法人栄和福祉会
事業所名	グループホームたのうらそう
所在地 (電話番号)	熊本県葦北郡芦北町大字田浦町822-3 (電話) 0966-67-3430
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成20年12月20日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤	人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1 階建て	1 階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円/30日	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 88.26 歳	最低 84 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	百崎内科医院、熊本労災病院、水俣病院、藤崎歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かで広い敷地に造られた花壇と、入居者と職員が育てているプランターの花々に囲まれた環境で、ホーム内は季節感あふれる手作りの装飾品やクッション、椅子の背当て等温かみにあふれ、入居者を大切に思う法人並びに職員の気持ちが伝わっていた。介護予防のモデル事業の「あそびReパーク」への参加や、「たっしやか会」など入居者が外部の社会資源を活用できるように支援を行い、保育園児の散歩コースにホーム訪問を組み込んでもらう等、園児との交流にも取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の指摘事項であった団地との交流は、地道な取り組みが行われているものの、多様な世帯構成からなる地域との交流の難しさもみられ、引き続きの努力が期待されます。家族会の結成が実現すると多様な協力も得られると思われる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、各々がシートに書き込み、振り返りを行い反省や改善点なども出され、有効な活用が行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	外部評価結果を、運営推進会議で報告。また、ホームの現状や活動報告も行い、行政から情報を得たり、包括支援センターからのアドバイスを得るなど、地域の人からヒントを貰い、運営に活かす話し合いがもたれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会等も多く感謝の声が多く聞かれるものの、運営推進会議への参加時のみの家族意見の集約では充分ではないように思われる。意見の集約ができるような新たなシステムづくりが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域に出掛けて活動するなど積極的な取り組みが見られる。介護予防モデル事業や「たっしやか会」への参加。近隣の保育園との交流や近所の人への声かけにも努めている。前年好評だった「朝市」野菜の不作で今年は実施できず残念でしたが、規模は小さくても、継続して開催されることが期待される。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考え作られた5項目のひとつ、「自然と共生し笑顔が絶えない安らぎのある家を作ります」の理念の下、自然に囲まれた地域とのつながりを大切にしながら、地域の中で安定した生活が支援されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げ、訪れる人にもホーム運営の基本を伝えている。目に付きやすい場所に理念を掲示し、機会あるごとに振り返ると共に、職員の胸のネームの裏に入れ、意識付けがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	社協主催のたっしやか会・あそびReパーク等への参加で、外部の人との交流を深め、また、近隣の保育園の協力を得、芋掘りや園児の散歩コースに加えられる等、多岐にわたる渡る交流が実施されている。高校生の研修を受け入れ、出身地区の話などを聞き、入居者にも喜ばれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、自己評価は全職員で取り組み、管理者がまとめている。細かい自己評価を行うことで、シフト交換等の効率的な実施や個別の外出を増やすことなど、さまざまな気付きが生まれ、効果を上げており、外部評価の結果は運営委員会にも報告している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター・民生委員・地区会長・役場担当者・家族代表・入居者代表等各方面からの参加を得て、2ヶ月に1回開催。ホームの現状や行事を報告し、意見等については検討・改善に繋げている。また委員の勉強会等も実施し、より良い環境作りに努力がみられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者は運営推進会議の委員で運営会議への参加を得ており、情報の共有は行われているが、行事等への参加には至っていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一人ひとりの入居者に担当スタッフが決められ、担当者が病院受診・日常生活・健康状態等写真を添えて家族へ、毎月書面で報告している。家族から感謝の言葉が寄せられており、必要な物品の持ち込み依頼や、買い物の許可など細かい連絡がみられた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問が多く、面会時に意見を伺い個別対応が行われている。クリーニングの希望など即対応。また、ドライブや花火見物・朝市等、家族も参加出来る行事を計画し、家族が意見を言いやすいオープンな環境が作られている。	○	家族の交流や、気軽な意見の引き出しのために「家族会」があると、更に良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体との職員異動があるが、同一法人の「特別養護老人ホーム」や「デイサービス」等の利用者の入居が多く、馴染みの関係が作られており、異動がことさらのダメージとはなっていない。内示から1ヶ月の期間をかけ異動を実施するなどの努力が見られ、夜勤についても、慣れるまで2人体制で、利用者・職員ともに不安がないように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人では心の教育を大切に、介護関係の雑誌「おはよう21」や「リンクル」を職員が定期購読し、日々の研鑽に努めている。また、社会福祉協議会主催の研修会や認知症ケア部会の研修参加と、研修や学習機会を多く設けている。また今年度は計画作成担当者を管理者育成のための研修に派遣するなど、知識や技術の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者で作るブロック会や社会福祉協議会の研修に参加し交流を行っている。また、他の施設の見学を通し、自グループホームの運営に活かすなどの取り組みも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体法人の特養やデイサービスからの入居者が多い利点を活かし、情報収集はスムーズに行われている。新しい入居者には1対1の対応から始め、集中的に話を聞き、家族に面会を頼む等の対応で、落ちついて早く馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑での野菜作りやプランターでの花植・干し柿づくりなど入居者に教えて貰いながら実施。また、おやつ作りも相談しながら入居者と一緒に作るなど、入居者の力が発揮できる取り組みが作られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お茶の時間、全員に同じ飲み物を提供するのではなく、入居者の好きなものを尋ね、一人ひとりの希望に沿った飲み物が提供されている。入居者の「饅頭が食べたい」「刺身が食べたい」等の希望を汲み取り、一緒に買い物に行くなど思いを叶えるよう努めている。また、職員の話す声のトーンも穏やかで、入居者に対する「やさしさ」が感じられた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	1人の職員が2名の入居者を担当し、ケアチェック表を作成し、本人の意見や、家族の意見を聞きながら計画担当者や管理者、他の職員、本人参加でモニタリングを行い、チームで介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直し、落ちついた状態の時は6ヶ月に延ばし、状態の変化があった時は即時見直しを行い、介護計画を作成し面会時、家族に説明している。遠方の家族には介護計画を郵送し、電話で説明して同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望による買い物や、外食・美容院利用の支援、生活していた場所へふる里訪問や病院受診の同行等、本人や家族の要望に応じた様々な支援が柔軟に行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が遠方の場合には家族に受診を依頼し、町内の受診は殆ど職員で対応。結果を家庭へ報告し、1週間に1度の応診と、訪問看護も行ない家庭の安心を得ている。インフルエンザ予防接種は、往診を依頼しホーム内で受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末ケアの対応は予定しておらず、入所時に重度化や終末期の対応は説明して同意を得ている。母体の特別養護老人ホームとの連携で、可能な限り母体施設での看取りを実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護については職員にも充分注意し、個人記録等は事務室に保管している。記録のための時間を設け、入居者や外部の人の目に触れない記録作業への配慮がある。また、職員の言葉かけも穏やかで入居者を尊重する姿勢が感じられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食等は時間通りではなく、起きてきた順に行い時間の制約をしない暮らしが見られた。本人の希望で部屋食への対応もあり、その人の希望をかなえ、一人ひとりが大切にされていた。外に出たがる人も制止せず、一緒に外出するなど、利用者のペースに合わせた個別の支援を大切に考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は職員不足で、母体施設で作った食事を利用し、畑で収穫した野菜を利用した一品をプラスしたり、おやつと一緒に作るなどの努力をし楽しんでいる。食器にもこだわり、入居者の希望に対応している。	○	おやつ作りは入居者の楽しみの一つで、収穫した野菜等を使い、楽しんで行われている。食事作りも、職員体制が整って、一緒に作れるようになると更なる楽しみに繋がると思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週3回だが、拒否等がある際は時間帯変更や、翌日に行くなどの方法や、気の合う入居者同士の入浴等の工夫もある。冬場は脱衣場にストーブを設置したり、浴槽の湯気で室内を暖める等、快適な入浴への気づかいが見られる。ユズ湯、菖蒲湯等取り入れ、季節を感じられるような配慮もなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	部屋の飾り付け、手芸、おやつ作りなど、楽しみごとが工夫されている。庭での日光浴、犬の散歩や買い物など気晴らしごとも多く作られ、今までの経験を生かした畑仕事や花作りなど、楽しみながらの生活が展開されている。また、希望に合わせたふる里訪問も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い敷地内でゆったり日光浴や散歩。希望により2~3人に別れての買い物や全員でのお出掛け等、望みをかなえる支援がある。ホーム専用車があり、自由に外出が出来る体制が見られた。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・居室への施錠はなく、見守りで対応されており、自由に外出する姿が見られた。また、入居者が外に行かれる際は、職員が後ろに付き添い静かに見守りが行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	居室にはヘルメットが備え付けられ避難訓練時に着用している。火災通報専用電話機、警報用のサイレンが準備され、年3回の避難訓練を実施する等、各種対策が講じられている。また、隣接の団地住民の理解を深めるための交流も努力されている。	○	継続して団地住民との交流への試みを続けて行かれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事が提供されている。朝の健康状態で食事量や水分量をチェックし、必要に応じて表に記入する個別の対応が見られた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い手作りの庭、玄関前には入居者と一緒に植えた花のプランターやベンチがあり、日光浴を楽しむなど寛ぎの場となっており、金魚や季節感にあふれた装飾が来る人を温かく迎えてくれる。フローリングの明るく心地よい空間には、至るところに花や行事等記録した思い出の写真が飾られ、手作りの優しさを感じられた。生活感・季節感にあふれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフローリング、畳にコタツ等入居者の希望に合わせてある。室内はきれいに掃除され、家具の持ち込み、写真や消臭を兼ねた綺麗な花が各部屋に飾られ、カーテンもリースで清家保持と配色や厚さへの配慮も行われている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームたのうらそう
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県葦北郡芦北町大字田浦町822-3
記入者名 (管理者)	濱崎 千代子
記入日	平成 20年 11月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当事業所の理念で「自然と共生し笑顔が耐えない安らぎのある家を作ります」とあります。自然と共生を地域とのつながりと考え地域の中の暮らしを大事にしています。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>昨年地域交流の一環として「朝市」を開催しました。畑で採れた野菜を格安で地域の方々に提供し交流を図りました。お客さんの感想として「普段と違って利用者の方が生き生きしてたよ」との感想もありました。「たっしゃか会」に参加し地域の方とのふれあいがあり笑顔が見られ話しはずむ。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族とご本人の意見を尊重して訪れる場所を選定し「秋のドライブ」を企画した。昔を思い出し「あそこの道を山越えて買って行きよった」「祭りの賑わいましたな」等、色々な話を聞かせていただきました。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>昨年朝市にグループホームの隣人である団地の方々に案内を呼びかけるチラシを2度にわたって配布し気軽に立ち寄ってもらうように働きかけた。現在は散歩時の挨拶位になっている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の保育園の運動会や七夕祭り、村祭りの参拝や「たっしゃかかい」の参加を行っている。今後老人会等に働きかけ交流を求めて行きたいと思う。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会との交流を考えているがまだ実現に至っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今まで受けた外部評価の改善点を基に改善はされている。職員にも自己評価の記入を求めて啓発に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、前後の行事を行ってきた説明と日常生活の様子などを報告している。話し合いの中で意見があった事には検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者との行き来は運営推進会議のみなので機会を多くつくらなければいけないと考える。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての学びは包括支援センターが市町村の相談窓口となっているので運営推進会議で担当者に講義していただくことなど考えたい。	○	地域の「認知症ケア一部会」でも研修会が企画されているので参加したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進委員の包括支援センターの方が推進会議の中で話しをしていただくようお願いしている。職員も研修会に参加したのでGH内の勉強会で報告し虐待が行われないようお互いに注意する様にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は計画作成者(主任)を管理者育成のために研修に派遣。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者で作るブロック会や社会福祉協議会の勉強会研修参加し意見交換を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会などを催し各事業所が集まりストレス軽減に努められている。GH職員のみ食事会も行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	目標管理シートで各事業所の目標をあげ評価を行い仕事においての向上心を養われている。法人内での「心の教育」が行われている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時の家族の不安今までの経緯などを聴き不安解消に努めている。	○
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	センター方式を用い家族に協力していただくところはお願いして記載して頂いている。そのなかから家族の要望等もわかる。また、面会の際などに聞くようにはしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「出来るだけ自分の足で歩くように」と望まれる家族が折られるので車椅子は使用せずに手引き歩行などの支援を行っている。他のサービスを望まれる家族は現在のところ居られない。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居室については家庭で使っていた私物を持ってきてもらうように依頼をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	リハビリ体操やレクリエーション時に昔の歌や童謡など利用者から教えてもらうことも多い、又野菜の作り方や干し柿作りなどは利用者から教わりながら行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がドライブ時参加されたり面会時に話しを聞く。以前は朝市に家族が訪れ野菜を買っていかれたり交流を図る事があった。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式で家族に昔の履歴等を記載協力をお願いした。全部の家族とはいえないが、履歴をしり職員も家族との関係を把握しご家族とのよい関係が築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問や住み慣れた場所、本人の家の場所まで行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションや外出は全部の利用者に声掛けし行っているが「やりたくない」「調子が悪いからでたくない」と言われるときは個人を尊重し無理には誘っていない。		他の利用者とトラブルになりやすい方はケアプランで取り決めを行い職員が間に入るようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所になられた方などについては、年賀状の挨拶などを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から昔の暮らしぶりなどを聞き話題のなかに取り入れて援助を行ったりしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し一人一人の暮らし方、生活環境等、把握に努めている。朝はパン食であったと家族からの記載から判った方は日曜日にパン食を取り入れるなどを行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間での申し送りで夜間の様子、状態把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース検討会議を開催し職員の意見も聞きながら介護計画書を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	およそ3ヶ月毎に見直しを行い状態が落ち着いている方については半年に伸ばし見直しを行う。入院、状態の変化があったときは見直しを行い介護計画作成し家族に説明し署名、押印お願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌記録、個別の支援経過記録を記載し担当者の気づきなどは申し送りや話し合い時に意見を出し対応を行っている。GH内のケアプラン会議を企画している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族から帰省、法事、外食等つれて行きたいなどの要望は即対応し帰省できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の交番からは警察官立ち寄り所として依頼すればきていただくようになっており民生委員からは地域の情報を頂いている。他、地域の高校生、中学生の職場体験等の受け入れを行っている。	○	保育園との交流を図りたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護予防事業に協力参加を行っている。他、地域の居宅事業所を回りケアマネジャーとの連携が取れるように始めた段階である。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター所長は運営推進会議に参加してもらっているので色々な情報を出来るだけ共有し協働できるように働きかけていきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	脳神経内科専門医が主治医となっている方については主治医に相談して対応を行ったり受診を行ったりしておりその時の報告、相談も家族には入れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録については事務室に保管を行っている、外部者が入る事は無い。トイレなどの誘導の際に声を掛けるが、難聴などで時々声が大きくなる時がある。	○ 難聴者が多いので職員も耳元で話す様指導を心がけてはいる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ自由に過ごしていただく事を念頭においているが、危険があるときは職員が付き添いを行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出たいと希望する方は職員が付き添い散歩が出来るように支援しており外出も希望があれば支援できる態勢にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族の協力で送迎されたりご本人のなじみの理美容室に出かけられる方が全員であるので同行し散髪している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は同法人で作るので配膳やかたづけ程度である。	○ おやつ作りの参加希望があるので畑で取れたサツマイモ、豆などを利用したおやつ作りを共にしてもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	1日、15日は赤飯とお酒を提供するなどしており嗜好品があればその状況により提供を行っている。	○ 野菜や果物を使用した「ミックスジュース」が好評である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入所時は失禁、リハビリパンツ、夜間はポータブルトイレ使用の方がいたが徐々に失禁なくなってきたのでポータブルトイレ、リハビリパンツをやめ普通のパンツに戻した事例もある。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな時間帯、入浴日は決めているが拒否があった方は、時間帯をずらしたり翌日に行ったりしている。軟便や下痢等の時もシャワーの使用を行う。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	プレイルームにソファやコタツを準備したら昼間はコタツに入り休まれる利用者も出てきた。家でも自由にどこでも休まれている方であった。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事の得意な方には手伝ってもらったり、外出の好きな方には御立岬や故郷訪問等おこなっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かり金を預かり、日用品等は一緒に買い物に行くようにしている。ご本人の管理もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出られる方については職員が付き添い事故防止につとめ希望に添って出られるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「生まれた場所に行きたい」との希望があったので現在、家はないが家族に家のあった場所を聞き故郷訪問に出かけた、御立岬にご家族も共に他の利用者と一緒にドライブされる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に居られる家族からの手紙、電話のやり取りは支援を行っている。贈り物が届いたらご利用者本人が電話に出て話していただいている。年賀はがきはGHとご本人も出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会があればプレイルームや居室でゆっくり話ができるようにお茶などを提供しながら家族、又は友人との時間を大切にしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料等を配布し職員に身体拘束のないケアを周知している、虐待等の研修には積極的に参加促している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間、玄関、居室は鍵をかけていない。いつでも出入りが自由である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は30分毎にプライバシーに配慮しながら巡回を行い。外に出られる方については職員が付き添うなどして対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消火器などは所定の場所に設置しており利用者が触りそうになる前の段階で回避している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火訓練はすでに一年に3回行っており消防署に報告を上げている。その他介護時の事故等に関してはマニュアルの周知のみである。防止策を講じていきたい。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルで周知はしているが、訓練を行っていないので今後行っていきたい。	○	緊急対応委員会で訓練を行っていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の団地に交流を求めているのは災害時に協力を受けられる為に行っており防火訓練のなかでもご近所に災害時に駆けつけてもらうようにサイレンを鳴らすなどの訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	実際、病院入院で手におえないと退院された利用者を引き受ける際には家族と転倒のリスク等について話し合いケアプランも引き受ける際に作成し家族、職員に周知を行い対応した。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員の交代時の申し送りで情報伝達、共有に努めている。訪問看護又主治医の週1回回診時の情報も共有できている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく薬が変わると処方箋を見て職員がわかるように心掛けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝のリハビリ体操や毎日の散歩で体を動かしているが、管下剤に頼っているところもある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアとしてイソジン液を使用しうがい清潔に取り組んでいる。夜間はポリデンで消毒施行。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌や申し送り時や朝の健康状態チェックで食事量、水分量をチェックしている。食事の量や食器(ご飯茶碗、湯飲み)もご本人の希望に対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策は法人の各事業所が集まり実行委員会で会議、取り決めを決めていた。	○	主治医に連絡し受診、往診等お願いし指示を受けている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理場の当番者は石鹸で手洗いを行う。まな板や器具類等消毒剤の使用、出来上がりの物はその時で食べきり残量無としている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	職員の手作りによる表札を掲げたり、玄関を入ったら金魚の水槽や手作りのクッションを載せたいすを配置している。外回りも庭園を造っており景観的にも良いと思う。	○	季節の小物、花などの演出をご利用者とともに話し合いながら計画する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにクッションを変えたりコタツをプレイルームに配置したりぬくもりを感じるように演出を心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では仕切り等がないので一人になれる空間はない。独りになりたいと思われる利用者はおのおの居室に入っていられる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入所時に家庭で使用されていた物使い慣れたものなどを持ってきていただくようお願いしているが、新しい物を購入されている。一部の方は持参も見られる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝食昼食夕食後空気の入れ替えや居室の窓を開けて空気の入れ替えを行っている。パット使用後の処理にも工夫し空気清浄機2箇所、ファブリーズの使用等施行している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーになっており段差はない。トイレ入り口には手すりをつけている。廊下には歩行の自立支援の為に手すりはつけていない。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失見当識障害で部屋がわからない方は、ご自分の表札を見て本人の部屋が見つかっている、小物を利用しているところもある。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	東方向に畑があり、西に庭園がある。花が咲く頃は「見てみなっせきれかよ」と利用者が花を見にしょっちゅう玄関から見に行かれていた。	○	特養田の浦荘に通じている広場に散歩が日課になりつつある。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が安心して暮らせ地域に根ざした施設作りを念頭に運営を行っております。利用者と一緒に畑で野菜作りや季節の花作り又地域での介護予防事業に参加を行ない利用者が自然と笑顔が出るような生活を重点に活動行っております。